

# 519 切迫流（妊娠中期）・早産患者における性格特性について

東海大，同精神科心理室\*

見常多喜子，古橋進一，内村道隆，岩崎克彦，  
藤井明和，簗一誠\*

〔目的〕妊娠中期流産は病因論的には早産に類似した機序によると考えられている。中期流産・早産の背景としては PROM, 頸管無力症，多胎などの産科的異常，偶発合併症の有無の他に社会的要因の関与も大きく，そのなかでも心理的ストレスが胎盤機能を低下させ，子宮収縮をおこし早産につながることもある。切迫流早産患者は心理的ストレスを蒙りやすい特別な性格をもっているかどうかを EPPS (Edwards Personal Preference Schedule) 検査を用いて調べた。〔方法〕EPPS 検査は約 1 時間で 225 項目を二者択一的に選び 15 の性格特性（達成，追従，秩序，顕示，自律，親和，他者認知，求護，支配，内罰，養護，変化，持久，異性愛，攻撃）が測定される。今回は予後良好であった 12 人の初発時 17~32 週の切迫流早産患者を対象とした。〔成績〕12 症例の各特性の平均パーセンタイルの特徴は追従 (69.25%)，秩序 (76.0%)，顕示 (63.33%)，内罰 (69.93%)，変化 (71.83%) が高いことである。そして，クラスター分析によると秩序，内罰，追従が 1 つのクラスターとなり，顕示と変化が，もう 1 つのクラスターになった。〔結論〕切迫流早産の臨床症状を毎回の妊娠毎にくり返す症例が多く，性格特徴は，秩序，内罰，追従が 1 つのクラスターとなり，顕示と変化がもう 1 つのクラスターを作っていた。追従が高く顕示が高い，さらに，秩序が高く変化が高いという矛盾がみられことがこの群の特徴と考えられる。

# 520 呼吸管理を必要とした粟粒結核症合併妊娠の症例

福井医大

後藤健次，竹内 譲，紙谷尚之，富永敏朗

〔目的〕粟粒結核症は比較的稀な疾患であるが，急性呼吸不全を呈する場合死亡率が高く，早期診断，治療が必要である。妊娠後期に粟粒結核症に罹患，強力な抗結核剤の使用により母児共に救命し得た症例を経験したので報告し，その免疫学的背景についても検討した。〔方法〕症例は 39 歳初産。発熱，乾性咳嗽を主訴に妊娠 29 週時に入院。体温 38.2℃，右下肺野に捻髪音聴取，胸部写真上同部に小粒状陰影を認めた。急性炎症反応陽性，白血球数 7400 と正常なるも分画にてリンパ球が 2 % と著減，各種細菌学的，ウイルス学的検査は陰性で，ツ反も陰転化していた。〔成績〕抗性物質投与無効にて急激に呼吸不全状態に陥り，胸部写真上全肺野にすりガラス様陰影を認めた。第 12 病日に喀痰より Gaf fky 検出，粟粒結核症と診断。眼底にも脈絡膜結核結節を認めた。INH, RFP, SM の三剤併用療法により母体の著明な改善が得られ，妊娠 37 週以降結核菌の排菌も消失した。妊娠 41 週時帝切分娩にて 2431 g 男児出産。娩出後も母体は順調で，新生児にも先天性結核の発症はなく抗結核剤の副作用発現を認めなかった。胎盤に結核結節はなく，羊水結核菌培養も陰性であった。〔結論〕本症例は極めて急激に症状が悪化したが，連日の結核菌検査，眼底検査が早期診断に有効であった。免疫学的には，入院時 T 細胞数が 9.2 % と著減，OKT 4 / 8 比 0.6 と低下していたが，母体の改善と共に徐々に回復し，分娩直前には各々 18.5 %，1.1，分娩後に 23.7 %，1.2 と上昇傾向を認めた。B 細胞は正常範囲であった。以上より妊娠中の本疾患の発生及び悪化に関して，妊娠による細胞性免疫機能の低下が示唆された。